

三輪田学園
中学・高校
(東京・私立)

参加しやすい学校行事や、進路学習に関わる機会、子育てを語る場などにより保護者との関係を強化。親子で「ワクワクできる学校」を目指す

保護者会に9割近く参加、ひとりの社会人として協力も

三輪田学園中学・高校は130年近い伝統をもつ中高一貫の女子校だ。教育理念である「德才兼備の女性の育成」をゆるぎない軸にしつつ、現代的な「世界に興味・関心を持ち、学び続ける力」や「問題を解決する論理的思考力」といった5つの力を掲げ、不確実な社会をしなやかに生きる女性の育成に取り組んでいる。

その教育の実践に、「保護者の方の支援は絶対必要」と校長・吉田珠美先生。同校では学校に対する保護者の関心が高く、教育活動に関わる機会も少なくない。学期ごとにある保護者会への出席率は、高校になっても各クラス8〜9割。生徒数を超える観覧者が声援を送る運動会をはじめ、各学校行事には多くの保護者が足を運んで盛り上げる。

また、進路学習においては、保護者が「ひとりの社会人」として関わる。同校の進路指導の基本にあるのは「どう生きるか」だ。まず中学校段階では、自分

らしく生きていくさまざまな大人の話を聞くことで、自分の生き方や大切にしたい価値観について考えさせる。そうしたベースの上に、高校段階では大学・学部研究やオープンキャンパス参加、未来を考えるための「自分史」の作成などを通じ、具体的な職業や進路について考えていく。

そうした段階的な進路学習プログラムの一部として、中学3年の夏休みの課題では、生徒が保護者に仕事についてインタビューし、レポートをまとめる。また、中学3年冬には保護者による講演会を開催。4〜5人の保護者に依頼し、自身の仕事に対する思いや苦労、やりがいを語ってもらう。

保護者の不安や関心にオープンな姿勢で応える

保護者に支援を求めるだけでなく、学校側からも積極的に情報提供し、保護者に寄り添っている。

年度始めおよび学期ごとに保護者会で教育方針の説明や活動報告をするのももちろんのこと、近年は保護者の

注目度の高まりを受けて進路に対する情報提供の充実を図っている。以前より前倒しし、高校1年から保護者対象の進路ガイダンスを開催。保護者会同様、8〜9割の参加がある。

「特に最近では、大学入試改革の行方不安をもたれています。改革の方向性や具体的な変更点、それに対する本校の対策を積極的に伝えるようにしています」

これらの保護者向けイベントでは、仕事をもつ保護者も参加しやすいよう土曜日を活用する例が多い。また、吉田校長は月3〜5回「校長ブログ」を通じて学校の取り組みの報告や教育の動向に対する考えを発信。さらに進路指導室も「進路ブログ」を運営しており、主に生徒を対象としたものだが、保護者を含め広く読んでもらうことを目指している。

一方、生徒を通じたプリント配布では、保護者の手元に届かないことも。そこで、重要なものには捺印をもらうなどの工夫で確実に伝達し、学校と家庭との間にすれ違いがないようにしている。



進路指導室長
加納克也先生



校長
吉田珠美先生

日常的にも「情報の共有」を意識。欠席連絡をはじめ、気になる点があれば家庭へこまめに連絡する。学校行事には保護者にも参加を呼びかけ、生徒と感動を共有してもらう。また、学校側

中学3年生対象の保護者による講演会の様子。苦労話も交えるが、最後は前向きな話で締めくくられるよう依頼



校長ブログでは、校長の視点からの行事報告や、校外イベントに参加した感想などが綴られる

学校data
1887年創立／普通科／生徒数489人(高校／女子のみ)／進路状況(2015年3月実績)大学143人・短大1人・専門学校2人・海外大学進学2人・未定17人

取材・文／藤崎雅子

学校の教育方針・目標

- 教育理念
徳才兼備の女性の育成
- 校訓
誠のほかに道なし
- 育成を目指す5つの力
①世界に興味・関心を持ち、学び続ける力 ②問題を解決する論理的思考力 ③リーダーシップとフォローシップ ④対話する力 共感する力 ⑤確かな職業観にもとづく人生設計力
- 進路指導の方針
人として「どう生きるか」を基本とし、「未来の自分」をイメージし、そのために必要な「現在の自分」の発展を考えさせる

保護者への働きかけ

- 伝える**
 - 保護者会
 - 進路ガイダンス
 - 校長ブログ(月3~5回)
 - 進路ブログ(年15回程度)
- つなぐ**
 - 三輪田教育サロン(年5回/平日・土曜)
 - 学校行事への保護者参加の促進
- 協働する**
 - 中3「保護者インタビュー」
 - 中3「保護者講話」

保護者の視点から



高校1年生の保護者
國吉真理さん

悩みを共有できる「教育サロン」娘と学校の話をするきっかけにも

「教育サロン」には毎回、参加しています。校長先生のアカデミックなお話も勉強になりますし、何より先生方やほかの保護者の方と悩みを共有したり本音で話したりできる機会は貴重ですから。さまざまな学年の方が集まるので、私はこれまでずいぶん先輩のお母様方のご意見や励ましに助けられてきました。ですから、今度は自分が下の学年の方に還元できたらいいなと思っています。

最近で印象に残っているテーマは「アクティブラーニング」でしょうか。子どもたちが受けている授業を体験する内容で、保護者同士でわいわいと楽しかったです。学校はグローバル社会を意識してどんな教育をしようとしているかがわかり、穏やかな子が多い三輪田でも自分で意見を発信していく必要があると実感しました。「教育サロン」のことはいつも家で話題にするのですが、娘と同じ目線になったアクティブラーニング体験後は、特に親子で盛り上がったのを覚えています。



「三輪田教育サロン」は少人数のグループに分かれ、お茶を飲みながら和やかなムードで進められる



図1 「三輪田教育サロン」のテーマと参加者数(2014年度)

開催月	テーマ	参加者数(人)		
		平日	土曜	計
5月	中学生になった子どもの親として(中1対象)	42	72	114
7月	リーダーシップとフォローシップ	42	53	95
10月	親子で考える進路 ~大学入試改革でもとめられるこれからの学力~	63	74	137
12月	コミュニケーション力を中高時代に育てる	30	36	66
2月	女性黎明と三輪田元道の女子教育論(校長講演)	-	57	57

も生徒の家庭の状況を把握するのに、生徒が日々つける学習記録を活用している。

「日常のさまざまなコミュニケーションから、保護者の皆さんの本校に対する共感や協力のベースができていと感じる」と加納先生。保護者会出席率の高さは、こうしたコミュニケーションの結果といえそうだ。

**本音で語り合える
年5回の「教育サロン」**

保護者を対象に年5回開催する、「三輪田教育サロン」というユニークな取り組みもある。その前半では、大学入試改革で求められる学力やコミュニケーション力などをテーマに校長が講演(図1)。

後半では少人数で意見交換をしたり、ワークショップを行ったりする。同じテーマで平日と土曜日の2回開催し、合計100人前後が参加。土曜日には父親の姿もある。

ある回の「教育サロン」のテーマは「非認知能力を育てるには」だった。学力のようにテストで測定することができない「意欲」「忍耐力」「創造性」などの非認知能力の大切さについて、吉田校長がデータを引用しながら解説。そうした能力は同校でも大切にしており、家庭のしつても能力育成に影響があることを伝えた。

「最後のころはたいていスマホの使い方や勉強の話になりますが、そんな『井戸端会議』でよいんです。保護者の方の、誰かとつながりたい、悩みを共有したいという気持ちに答えられればと思います」(吉田校長)

「学校と家庭が車の両輪のように同じ回転数で同じ方向へ行くことで、生徒をまっすぐ進ませることが出来る」。それが同校の考えだ。だからこそ吉田校長は、もっとたくさんの保護者が気軽に学校に足を運ぶ仕掛けをしていきたいという。

「生徒だけでなく保護者の方にも、学校に関わることでワクワクしていただきたいんです。そのワクワク感はずっと生徒にも伝わり、良い影響がありますから親子でどっぷり三輪田に浸かっていただくのが理想ですね」